

最近の通信教育とeラーニング

第4回社会保険研修向上研究会

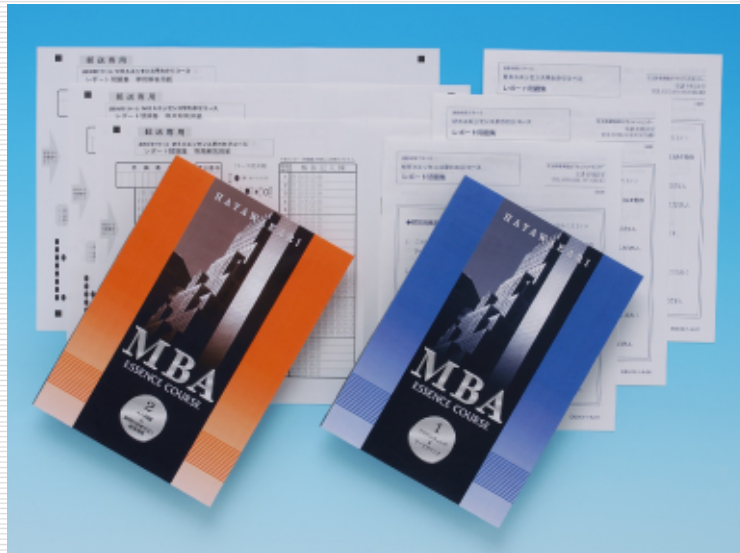
2006年5月29日

日本能率協会マネジメントセンター
長谷川 隆

通信教育の特徴

1. 学習時間や学習場所を選ばない
2. 多人数の教育ができる
3. 全国規模で同質同時教育ができる
4. 受講者がマイペースで学習できる

通信教育の学習フロー



通信教育の最近の動向

1. テキスト(紙媒体)以外の教材の活用

紙媒体以外のDVD, CD-ROM, ビデオなどの活用

2. Webの活用

Web による質問やレポートの提出

Web会議室による受講者間の意見交流

3. 他の研修手法とのブレンディング

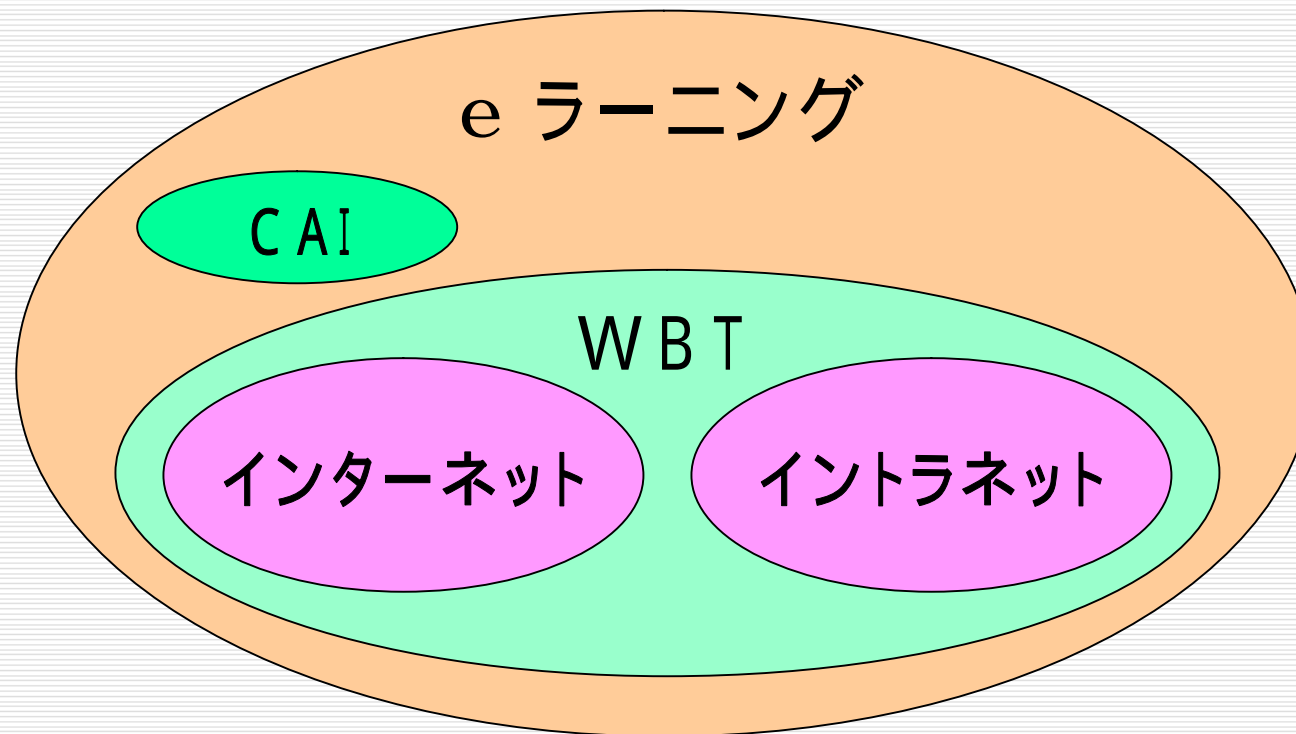
集合研修の前後での通信教育受講

eラーニング後の通信教育受講

e ラーニングの特徴

1. ラーニング・エンタランス
2. 多人数の教育が同時にできる
3. 教材デリバリーの必要がなく、グローバルにも対応できる
4. インタラクティブ(双方向性)である
5. 文字情報, 動画, 音声など多用な表現方法を使える
6. 学習進捗管理が即時にできる
7. LMS (学習管理システム)との連動がはかりやすい
8. 教育内容の修正が比較的しやすい

e ラーニングとは



CAI: Computer Assisted Instruction

WBT: Web Based Training

数年前のeラーニング

事業戦略 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(I) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 検索 お気に入り 履歴

アドレス(A) E:\wac\4s2s1k.htm 移動 リンク JMAM WBT HotMail の無料サービス Windows メディア Windows リンクのカスタマイズ

重要語句 & 活用メモ

コストリーダーシップ戦略

市場価格の決定権

コストリーダーすべての経営資源を展開

好循環(グッドサイクル)

投資

1 コスト・リーダーシップ戦略の基本的考え方

低コスト実現は競争優位の重要な源泉の1つです。

コスト・リーダーシップ戦略は、企業が事業規模を拡大することにより実現される規模の経済性と経験効果を機軸として、業界の最低コストを実現し「低コストの王者」になることにより、**市場価格の決定権**を握り、価格競争をしても最後まで黒字経営を維持できる体質を築くことをめざすものです。

ここでのポイントは、コスト低減は、どの企業でも取り組んでいる課題ですが、単にコスト低減に取り組む業界の一企業にとどまらず、**コスト・リーダーになることに向けてすべての経営資源を展開**するということです。

通常、コスト・リーダー企業は、高い市場シェアを確保し、規模の経済性や経験効果を機軸として低コストを実現していますが、その他のいかなる分野においても、競合他社に比べて優位なコストを達成するための策を講じています。

もちろん、低コストであれば品質やサービスを無視してもよいというわけではありません。顧客を満足させるだけの水準を提供することは当然必要です。

したがって差別化の面でも競合他社と近い地位を占めていることが大切です。

低コスト戦略により、圧倒的なコスト・リーダーの地位を占めるためには、たとえばつぎのような**好循環(グッドサイクル)**を創り上げる必要があります。

グッドサイクル

1. **投資**:いち早く大規模な生産設備への積極的な投資を行い、大量生産の体制を整える。

ページが表示されました

スタート Microsoft O... 35 インチ F... 02年度EL... 短縮版EL... JMAM WB... MBAマネジ... 事業戦略 ... 23:14

e ラーニングの最近の動向

1. 汎用コースとカスタマイズ・コース
2. インストラクショナル・デザイン
3. 他の学習手法とのブレンディング

汎用コースとカスタマイズ・コース

	汎用コース	カスタマイズ・コース
概要	教材ベンダーが開発しているコースをそのまま導入する	汎用コースの一部を組織に改変して導入する
メリット	手間・コストとも最小限で一定の効果を得られる	組織・業務にフィットさせられるので、インパクトがより強い
デメリット	あくまで一般論なので、自分の組織や業務への結びつけ（翻訳）が必要となる	盛り込む素材の準備や別途費用が発生する

インストラクショナル・デザイン

インストラクショナル・デザインとは、なるべく少ない費用、短い期間で、教育効果を最大限に高めるための、学習教材や学習方法をデザインする教育工学的な手法

- インストラクショナル・デザインを活用したコースウェアの設計と開発
- 受講者の学習動機を高めるための仕組みづくり

他の学習方法とのブレンディング

- eラーニング単体での活用から他の研修とのブレンディングによる学習効果の向上

